

## じゃがいもの花

池松 孝子

毎年、故郷納税を利用して全国の農産物が届くのを楽しみにしている。今年も好物のアスパラガスを考えてあちこち物色していた。そこで目にしたのが北海道の大空町だった。厳選グリーンアスパラ1・5キロに決定。また、大空町はアスパラガス以上にじゃがいもの大産地としても知られている。

映像でしか目にしたことはないが、いつか現地で見たいとあこがれているのが大空町のじゃがいもの花である。その思いを強くさせる人がいる。美瑛町出身の友人だ。

彼女の話によると、その広大な大地ではもちろん機械で種芋を蒔きつける。すると丘の遙か彼方に向かって筋状に何百メートルにも連なるじゃがいもの畝ができる。六月後半から七月半ばにかけて、緑の畑に長い花の列が延びる。北海道の初夏の訪れだ。どんな花畑にも負けないスケールの大きい見事な花畑だという。さらに美しいのはその花の色だ。男爵は赤紫、メークインは白地に紫の絞りなど品種毎に違った色の花を咲かせる。見渡す限りの壮大なじゃがいも畑の丘は、見るものを圧倒する。空との境界線がどこまでも続く見事なじゃがいもの花畑をぜひ目にしたい。これが北海道の初夏の風物詩だと言っ故郷自慢の友人が羨ましい。

北の地にジャガイモの花整列す

奥野 品子

子供の頃、近所の農家の畑でじゃがいもの花をよく目にした。六月初め、伸びた莖の先に花が咲く。じゃがいもはナス科の多年草でナスの花に似た可愛い星形の花をつける。やさしい香りもあったように記憶している。この花の後に、そこにじゃがいもが実るのかと畑のおじさんに聞いたことがある。本当にそんなことを考えたのかと大笑いされた。花がつかないこともあるんだよと話してくれた。

植物も生きるため、体力を消耗しながら繁殖していく。じゃがいもは、開花して結実するのではなく、地下に芋をつけることによって繁殖する術を身につけたのだ。受粉能力は低いけれど、たまに実をつけることもあるそうだ。

